

川島会診療科別医師一覧

内 科	部長	東 博之	部長	井内 貴彦	部長	曽根 佳世子
	部長	小原 卓爾	部長	清重 浩一	医長	多田 真理枝
	会長	川島 周	理事長	水口 潤	主任部長	岡田 一義
腎 臓 内 科	部長	土井 俊夫	医長	井上 朋子	医長	島 久登
	医長	田代 学				
腎 臓 外 科	部長	唐仁原 全				
循 環 器 内 科	院長	西内 健	診療部長	木村 建彦	部長	岩瀬 俊
	部長	高森 信行	部長	飛梅 威	部長	橋詰 俊二
糖 尿 病 内 科	診療部長	野間 喜彦	部長	小松 まち子	部長	長瀬 教夫
消 化 器 内 科	医長	三好 人正	医長	福永 美穂	医員	高橋 千比呂
呼 吸 器 内 科	部長	坂東 弘康	部長	金川 泰彦		
血 液 内 科	統括診療部長	篠原 正幸	主任部長	安倍 正博	医員	丸橋 朋子
内 分 泌 内 科 ・ 内 科 外 科	部長	宮 恵子				
	部長	岩坂 尚仁	部長	三宮 建治	部長	近藤 慎治
	副院長	西谷 真明	主任部長	金山 博臣	部長	神田 和哉
泌 尿 器 科	部長	横田 成司	医員	原田 怜	医員	野崎 修平
	医員	宮坂 嶺				
整 形 外 科	部長	吉岡 伸治				
心 臓 血 管 外 科	部長	深田 義夫	部長	割石 精一郎		
脳 神 経 外 科	副院長	本藤 秀樹				
皮 膚 科	部長	横田 綾				
放 射 線 科	部長	日下 まき	部長	城野 良三		
麻 酔 科	部長	西出 俊二郎				
歯科・歯科口腔外科	医長	川島 友一郎				

川 島 病 院 へ ご 紹 介 く だ さ い !

患者さんの待ち時間が短く円滑に診療・検査を受けられるように、病院および診療所の先生から「FAX予約」をお受けいたしております。また、**患者さんからの電話予約も受け付けております。**ぜひご利用ください。

TEL 088-631-0110 FAX 088-631-5500

対応時間 月～金 9:00～17:00 (土日祝祭日、年末年始は除く)

- 1 「FAX受診予約申込書」に必要事項を記入し、FAX送信をお願いいたします。
- 2 予約をお取りした後、速やかに「予約票」をFAXにて返信いたします。ただし受付時間外の場合は、翌診療日にご連絡いたします。
- 3 患者さんに受診当日に以下を受付で提出されるようお伝えください。
 - ・予約票
 - ・健康保険証、お薬手帳

※「FAX受診予約申込書」は川島病院ホームページからもダウンロードできます。

川島病院だより Vol.02 2023 Oct. 10

腎臓内科
特集

社会医療法人 川島会 川島病院

〒770-0011 徳島県徳島市北佐古一番町6-1

TEL 088-631-0110
FAX 088-631-5500
WEB <https://khg.or.jp>

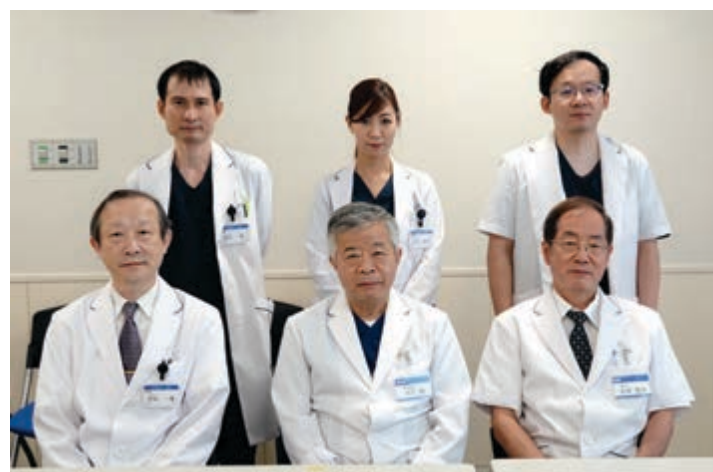




腎移植手術の様子

川島病院腎臓内科は、6名の常勤医(腎臓専門医6名：指導医3名、透析専門医5名：指導医3名、腎移植専門医1名)と外来診療を担当する2名の非常勤医が質の高い医療を提供しています。

経皮的腎生検は、新型コロナウイルス感染症の影響もありますが、年間50-60症例以上実施し、6つのサテライトも含め、1,143名の透析患者(血液透析1,030名、腹膜透析113名)と57名の腎移植患者を診療しています。



▲ 腎臓内科医師チーム

左から、前列：岡田医師、水口医師、土井医師、後列：田代医師、井上医師、島医師

腎臓内科のご紹介

川島会血液浄化管理センター長
腎臓内科主任部長

岡田 一義



腎臓病の異常を疑われる初期の段階、蛋白尿・血尿から腎代替療法(腎移植・腹膜透析・血液透析)に至るまで切れ目のない医療を、県内の約40%の患者に提供しています。腎生検・腎炎カンファレンスで腎生検の適応と腎炎の治療方針を決め、じんぞう教室で保存期慢性腎臓病(CKD)患者の教育を行い、腎機能障害の進行を抑えています。



▲ じんぞう教室ポスター

医師、看護師、検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士、医療事務などの職員が講師を務めます。

診療担当医		月	火	水	木	金
泌尿器科	午前	水口 潤	水口 潤	水口 潤	脇野 修 (徳島大学腎臓内科)	土井 俊夫
		井上 朋子	岡田 一義	島 久登	田代 学	—
		—	—	宮上 慎司 (徳島大学腎臓内科)	—	—
	午後	脇野 修 (徳島大学腎臓内科)	—	—	土井 俊夫	土井 俊夫
		岡田 一義	—	—	岡田 一義	—
		—	—	宮上 慎司 (徳島大学腎臓内科)	—	—

末期腎不全患者に対しては、先行的腎移植、シンプル腹膜透析、アルブミンリークオンライン血液透析濾過、在宅血液透析などにより生活の質を向上するとともに生命予後を改善しています。

近年、検診異常をきっかけに自己受診するCKD患者が増えています。また、ナトリウム-グルコース共輸送体2(SGLT2)阻害薬、アンギオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬(ARNI)、非ステロイド型選択的ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬(MRA)、低酸素誘導因子-プロリン水酸化酵素(HIF-PH)阻害薬などの新規治療薬が登場し、薬物療法が複雑化しています。

かかりつけ医が通院中のCKD患者を長期に診療するためには、適切な生活指導、食事療法、薬物療法により末期腎不全への進行を阻止することが必要であり、そのためには早期に紹介していただくことが最も重要です。



▲ 腎生検

徳島県内有数の腎生検実施施設です。

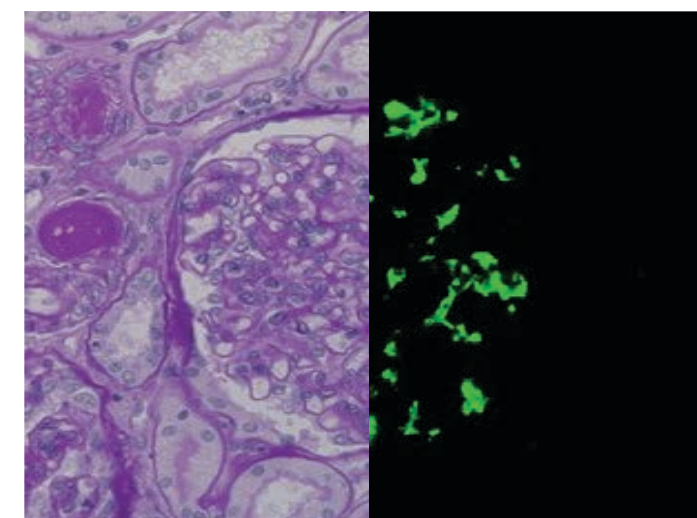
4～5日間の入院で、安全に腎生検を行うように努めています。また、腎生検・腎炎カンファレンスで診断と治療方針を決定しています。

当院は、患者とかかりつけ医の希望に応じた地域連携を推進しております。日本医師会が監修し、日本腎臓学会が作成した「かかりつけ医から腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準」もありますが、蛋白尿、血尿、推算糸球体濾過量(eGFR)60 mL/min/1.73m²未満のいずれかを認め、患者が専門医への受診を希望する場合には、ご紹介をお願いいたします。

蛋白尿 血尿

推算糸球体濾過量
60 mL/min/1.73m²未満

川島病院
腎臓内科へ



▲ IgA腎症

血尿と蛋白尿の精査で紹介された患者の組織像です。

糸球体にIgA(免疫グロブリン)の沈着を認め、IgA腎症と診断し、扁桃腺摘出術を施行しました。免疫抑制薬の治療により血尿と蛋白尿は消失しました。

